

いのちを守る福祉・防災都市東京へ！ 都政に憲法を！

都民がつくる革新都政

2012年9月15日 発行 = 革新都政をつくる会 発行人・中山 伸 〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10 東京労働会館 5F 電話 (5978) 4031 ホームページ: http://kakushintosei.org/ E-mail: info@kakushintosei.org (1部25円、送料は別途)

2012 関東大震災メモリアル いのちを守る

9・4 革新都政をつくる会 防災政策発表会 —いのちを守る東京アピールを採択—



防災政策「5つの提言」を報告する革新都政の会中山伸事務局長=12年9月4日・みらい座いけぶくろ

3・11大震災から1年半、首都直下地震の切迫が指摘される中、革新都政をつくる会は9月4日、池袋・みらい座いけぶくろで関東大震災メモリアル「いのちを守る」9・4防災政策発表会を開催しました。400人が参加し、震災予防を第一に「大都市スーパー災害」に備える「5つの提言」を発表し、地域での取り組みの紹介、科学的知見にもとづく正確な知識と東日本大震災による復興への苦闘、阪神淡路大震災のとりくみと教訓、東京都の被害想定のがみと欠陥について検証しました。

会場では呼びかけた被災地復興支援カンパは、15万6千円が寄せられ、「石巻住ました。」震災予防を第一に、都民の命と財産を守る「5つの提言」を発表。会は、新千明(新婦人本部)の策定をめざして、シンポジウムや懇談会の開催、現事務局長の両代表世話人の進行で進められました。

「5つの提言の詳細はパンフレット(1冊1000円)からホームページを

東日本・宮城、阪神淡路の教訓、科学的検証 —パネルディスカッション—

後半のパネルディスカッションの前は、真子さんのピアノの弾き語り。大震災からの復興、放射能汚染から子どもを守りたいと歌う「それは『約策』」など心をこめた歌唱が会場を包み込みました。



防災政策発表会での「パネルディスカッション」で発言する三浦県議(中)=12年9月4日・みらい座いけぶくろ

パネルディスカッションのバネラーは、三浦一敏(日本共産党宮城県議)、岩田伸彦(阪神淡路大震災救援復興国民会議事務局長)、中山俊雄(日本科学者会議)、末延渥史(防災首都圏懇談会)の4氏。コーネイネーターは、氏家祥夫(元都庁職委員)。

三浦氏は、3・11大震災から1年半、住宅の7割が受けた最大の被災地・石巻の深刻な現実を報告しました。中山氏は、都が発表した被災地・石巻について具体的な取り組みに立って理想と防災対策を

いのちを守る 東京アピール

首都直下地震の切迫が指摘されている中、関東大震災から89年目を迎えました。

「人間復興」をかかげて17年の苦闘が続く阪神淡路大震災、未曾有の被害をもたらした3・11東日本大震災、福島第一原発事故から1年半、その痛みの経験に学び、地震による災害を未然に防ぐとくみか喫緊の課題となっています。

巨大な地震からのちとくらしをどう守るか、その立脚点は、予防原則に立った都民の目線での科学的な理想と対策です。

「地震は自然現象であるが、地震による災害の多くは人災であるといえる。従って、人間の英知と技術と努力により、地震による災害を未然に防止し、被害を最小限に食い止めることが出来るはずである。」(震災予防条例、革新都政・1971年10月制定)

「東京のスーパー地震災害」から住民のいのちと財産を守ることは、都民のくらし、福祉を守ることとあわせて、都政の重要課題です。人命軽視・自己責任論の石原都政の防災政策を転換し、震災予防を原則とする防災対策を確立しなければなりません。

本日、革新都政をつくる会は、震災予防を第一に「大都市スーパー災害」に備える「5つの提言」を発表しました。そして地域での取り組み、科学的知見にもとづく正確な知識と東日本大震災と阪神淡路大震災のとりくみと教訓に深く学びました。

いま、3・11東日本大震災と福島第一原発事故により故郷をおわれた人は、35万人にも及んでいます。私たちは、いのちを守ることを最優先する社会をめざします。人類と共存できない原発はゼロにしなければなりません。みんなで力を合わせて、原発ゼロ、自然エネルギーへの転換でいのちを守る新しい東京と日本をつくりましょう。避難者・被災地との連帯と支援を強めましょう。

「地震の再活性期」に入り巨大な地震の被害想定が公表される中で、「あたりまえだったくらしと家族がなくなる」大震災の脅威と教訓を真摯に学び、「原発いらない」の流れをさらに強め、「大震災は天罰」などと叫び、原発推進論を声高に叫ぶ石原都政を転換して、いのちを守る新しい「防災・福祉都市、東京をつくりましょう。」

2012年9月4日 関東大震災メモリアル いのちを守る 革新都政をつくる会 防災政策発表会

青い空

啄木は東京の夏を「猛々しい暑さ」と日記に記した。東京だけが「猛々しい暑さの夏だった。さらに熱気をもたらしたのが、ロンドンのオリンピックと引き続くパリリンピック。人間の無限の可能性が示されて、大きな感動を呼び起こしている

その最中の9月7日、2020年夏季五輪の開催都市決定を1年後に控えたイベントが東京で開かれ、ロンドン五輪メダリストたちも招致PR。16年招致で支持率の低さがネックだっただけに、20年もマドリッド(78%)とイスตันบูล(73%)に大きく水をあげられて(東京・47%)、銀座パレードを仕掛けたり、イベントでメダリストたちを引き回して引き上げに躍起だ。このイベントで石原都知事は「国家と民族の活力を取り戻して次の新しい日本をつくり直すため、この五輪の獲得ゲームの勝利は不可欠」とまたまた五輪の理念はそっちのけで、国威発揚で吠えたという▼「ああいう人って、人格あるのかね」。重い障害のある人たちの治療にあたる病院を視察しての石原知事発言(99年)。パラリンピックと一体の五輪を招致する資格は石原氏にはない▼尖閣列島購入や新党づくりも「住民の福祉の増進を図る」(地方自治法)自治体の長として逸脱だ。(高)



